

カレッジ通信

編集・発行

東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎!

TEL 03
(5950)
1771

町の工務店の後継者候補 建築カレッジで基礎学習を

仲間と一緒に頑張れる 全2年間の密度の濃い教育

東京建築カレッジ(以下、カレッジ)は、町の工務店の担い手確保や後継ぎづくりにも役立っています。家族経営の小規模な事業所では親と一緒



3年連続で建築カレッジに若手社員を入学させた豊栄工務店の皆さん。戸建てリフォーム工場の現場で(左から、27期生・筒井嶺介さん、26期生・関口成樹さん、25期生・筒井啓翔さん、筒井社長)

豊かな森林資源を生かすために、いま何を 第23回公開講座

東京建築カレッジは10月30日、「けんせつプラザ東京」(東京土建本部会館)で、第23回公開講座「森林の恵みを暮らしの中へ 世界第3位の森林大国で建築ができること」を開きました。感染予防のため会場参加は在校生、教務運営委員などに限定し、昨年に続き、YouTube(インターネット上の動画共有サービス)ライブ中継で公開しました。テーマへの関心は高く、当日だけで視聴回数は400を超えました。

基調講演した「西川・森の市場」代表の井上淳治さん(林業家)は「木を好きになってもらう取り組みが重要」と子育てファミリー向けイベントや山の木との出会いから始める家づくり「IPPONプロジェクト」を紹介。西川材の持続的利用のため森林・加工・流通が一体となった新たな組織づくりの構想を明らかにしました。

これを受け、4人の卒業生(設計、大工2人、不動産)が「自分たちに何ができるか」話し合いました=写真。

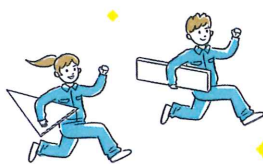


に働き始めた子どもの教育の場としてカレッジを選ぶ事例が少なくありません。「工期に追われがちな現場では教えられることは限られる」、「階段を一段一段上がるように基礎から知識や技術を身に付けてもらうには集合教育が必要」と考えているからです。カレッジと一緒に学ぶ同世代の仲間と競い合い、助け合う場もあり、建築従事者としての自覚も自然に養われます。

豊栄工務店(葛飾区亀有、筒井豊社長)は2020年4月、長男の啓翔

さんを高校卒業後すぐカレッジに入学させました。「私自身が若い時、全建総連傘下の職業訓練校で基礎を学んだ。若い時の学びはとても大切と考えて息子を入れた」と筒井社長。同社は社員大工の関口成樹さんを昨年入学させ、今年春には啓翔さんの弟、嶺介さんもカレッジに送り込みました。3年連続で社員を研修派遣することは人手が少ない小規模事業所にとって厳しい側面もありますが、「現場作業だけでは刻みなどを教えることはできない」(筒井社長)。毎週、新しいことをカレ

建築カレッジに入学できる就職先紹介



入学選考会は11月22日(火)、1月25日(水)。応募締め切りは選考会の前週金曜日。授業・学校見学歓迎。お気軽にご相談ください。

建築業界で働いてほしい方がいても自社で雇用できない場合はご相談ください。カレッジ無料職業紹介所が入学できる就職先を紹介します。他産業への若手人材の流失を防ぐために、情報を共有して希望を持って働ける職場を提案しましょう。

ジで学んでくる姿が貴重、と言います。

2階建て軸組み「実習棟実習」

1年生の授業から

手刻みで部材を用意し、自分たちで組み上げる木造軸組み2階建ての実習棟実習は、東京建築カレッジの教育の根幹です。

前期の実習棟の解



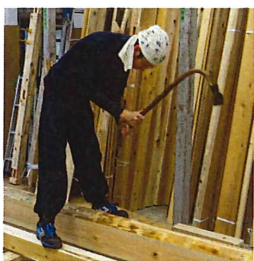
体授業を終えて、今年度も1年次の実習棟実習が始まりました。まず図面集が配られ、伏図の一種である「板図」（「手板」と呼ぶことも）を一人1枚作りま

「来構法」というハイブ

カレッジの実習棟は1階が金物を使わない「伝統構法」、2階が「在

リッド構造。丸太梁の担当は手斧（ちような）作業を体験します。

今の新築現場はプレカット材の組み立てばかりで、下小屋（「作業場」）を持たない工務店も少なくありません。また、



新築の仕事が無く、リフォーム工事しか経験できない研修生もいます。それだけに、カレッジの実習棟実習は貴重な学習の機会となつていま

毎週土曜日の午後を中心に「実習棟実習」を行っています。1月下旬の「建方・上棟」に向けて、卒業生指導員の手厚い援助を受けながら作業が進みます。

現場作業経験を交流

1年生(27期生)OJT報告会

外国人が現場に多くコミュニケーションで苦労した新築の建方の経験を報告する1年生



1年生は年3回、授業として実施のOJT（現場実習）報告会の2回目を10月29日、池袋校舎で行いました。出席者全員が所属事業所でどのような作業をしているか、説明しました。危険な作業に不十分な安全対策で従事せざるをえない現実が複数の研修生から打ち明けられました。「長く健康に仕事をしていくために君たちが安全対策の強化を要求してもいい」と学校長が語りかける場面もありました。

2年生の授業から

遣り方とは基礎工事の前の作業です。建物の正確な位置と高さを示す糸を張るための仮設の囲いを作ります。東京建築カレッジでは「測量実習」

基礎工事の前仕事「遣り方」



「技能照査」実技試験の課題「化粧樫隅木」の授業も始まりました。右写真。全員合格目指し励みしあつて授業に取り組んでいます。

のカリキュラムの中に組み入れています。野外での授業は難しかったため、10月28日、池袋校舎の3階にベニヤ板を敷いて作業しました。左写真。

